

## 日本OR学会賞

2017年度学会賞のうち、業績賞・普及賞・実施賞について、表彰委員会で選考のうえ、理事会にて以下のとおり承認されました。

各賞は2018年3月15日の春季研究発表会（東海大学高輪キャンパス）にて授与されました。

### 第19回 業績賞

#### ● 矢部 博 氏（東京理科大学）

##### 【選考理由】

約40年間にわたり非線形最適化に関する研究を行い、常に世界の最先端の研究成果をあげ続け、国際的にも高い評価を得ている。近年は、非線形の半正定値計画問題に対する主双対内点法、あるいは大規模無制約最適化問題に対する非線形共役勾配法に関する業績が顕著である。特に大規模無制約最適化問題に対する数値解法における同氏の研究は群を抜いており、一連の研究成果の注目度は極めて高い。OR教育にも注力し、「最適化ハンドブック」「現代数値計算法」「内点法」等多くの参考書・教材を執筆した。研究理事・編集理事・発表大会実行委員長・代議員等要職も歴任するなど、学会活動への多大な貢献を行っていることも評価した。

### 第43回 普及賞

#### ● 木村俊一 氏（関西大学）

##### 【選考理由】

一貫してオペレーションズ・リサーチの研究・教育に従事し、産業界への普及活動としてJR北海道社員研修（OR科）の講師を務めた。2007年以降「ファイナンスの数理解析とその応用」を主宰し、多くの若手研究者や企業人研究者に発表の場を提供した。OR関連図書も「金融工学入門」をはじめ「ファイナンス数学」「待ち行列の数理解モデル」等を執筆し、ミネルヴァ書房・ファイナンス講座の監修と朝倉書店・確率工学シリーズの編集も行っており、これらは学生・実務家向けの有用な教材として広く使われている。研究発表大会実行委員長（2回）、無任所理事（3期）、代議員、北海道支部長等を歴任し、学会活動に多大に貢献していることも評価した。

#### ● 斎藤 努 氏（(株)ビーブラウド）

##### 【選考理由】

研究普及理事・会計理事を担当、学会活動活性化に多大な貢献をした。特に、研究普及理事時より今日までORセミナーの活性化に取り組み、企画立案・コーディネーター・講師として活躍し、数年前まで1回約20人年2回であった規模を、1回約50人年4回にまで拡大し多くの受講者を生み出した。ここ数年で産業界からの講師は斎藤氏のみである。さらに「サプライチェーン」や「Python言語」に関するテキスト執筆陣の一員としてこれらの著作の刊行に貢献した。実業界に身をおくことから、実世界での適用には特に注力し、氏の「自動車船積付支援システムの自動関割」は事例研究賞を受賞している。以上のような幅広い活動を評価した。

● (株)日立製作所 (執行役社長兼CEO 東原敏昭)

[選考理由]

様々な部署・研究所で、製造／物流／交通など幅広くORを適用している。サプライチェーンなどの物流、生産計画における人工知能システムの開発や最適化手法、確率モデルなどのOR手法の現場への本格的な適用を積極的に展開している。実践の前段階の予備的な技術の検証結果の学会発表など、実務と学術分野の架け橋となる活動も行っている。特に「人工知能と熟練者の暗黙知の結合」では「人間をサポートするAI」を独自に開発し、現場作業に適用、「データ駆動型ビジネスアナリティクス」ではORの各手法を組合せた多くの手法を開発・実践していることを評価した。

● (株)NTTデータ数理システム (代表取締役社長 箱守 聡)

[選考理由]

同社は、1982年の創立以来、数理学とコンピューターサイエンスによる現実世界の問題解決の支援を行っている。特に、数理最適化や機械学習、シミュレーションなどのOR技術を活用したソフトウェア（パッケージ製品）やシステムの開発、コンサルティングにおいて豊富な実績を有し、その適用領域は、マーケティング、Web解析、施設配置、ロジスティクス、エネルギー、金融、スケジューリングなど多岐にわたる。具体例として「RTB（リアルタイムビidding）対応の広告配信割当てシステムの開発」「コンテナ積付け最適化システムの開発」「緊急出動スタッフの当直シフト編成ツールの開発」等が有効な効果を発揮していることを評価した。

\*\*\*\*\*

[2017年度表彰委員]

山下英明（委員長・首都大学東京）、村松正和（副委員長・電気通信大学）、猿渡康文（筑波大学）、塩浦昭義（東京工業大学）、鈴木勉（筑波大学）、関谷和之（静岡大学）、滝根哲哉（大阪大学）、土谷隆（政策研究大学院大学）、西川武一郎（(株)東芝）、吉瀬章子（筑波大学）